

第5回 リラックスカンファランスのご報告

脳卒中に伴うさまざまな問題に関わる診断・治療・ケアにおいて知識の交流・研鑽を堅苦しくなくリラックスしながら行い、筑紫エリアにおける脳卒中のトータルマネジメントの質の向上や開業医の先生方とも仲良い連携を目指す目的で、第5回の「リラックスカンファランス」を開催いたしました。

今回は、以下の2つのテーマにつき話題を提供させていただき、活発な質疑応答がございました。それぞれのスライドPDFを添付しておりますのでご覧下さい。

日 時：平成24年1月18日（水） 19：00～20：00

場 所：誠愛リハビリテーション病院 3F 医局手前の会議室

話題提供1：『ワルファリン vs 新規抗凝固薬の話題』

誠愛リハビリテーション病院 医局長 渡邊 義将先生

1/21 承認 3/14 発売された新規抗凝固薬ダビガトランの話題が提供された。たまたま本年1/18に承認された新規Xa阻害薬であるイグザレルト（一般名はリバーロキサバン）や、来年度中に発売予定のアピキサバン、エドキサバン等の最新情報も紹介された。乙成先生からは、ワルファリンが効きにくい場合にどのタイミングでダビガトランに変更したら良いか？右田先生からは、ダビガトランで皮下出血を起こしている患者さん等で、ワルファリンに戻したい場合にはどのような手順でもとに移行したら良いか？佐野先生からは、どうしても抗生物質（相互作用が少なく使いやすい薬剤があるか？）やNSAIDsを併用したい患者さんでは、PT-INRを頻回に測定できないので如何なる基準で抗凝固薬の容量調整をしたら良いか？等の貴重なご質問があった。

話題提供2：『当院 FLEX リハ、365 日リハのご紹介』

誠愛リハビリテーション病院 副院長 楠田 憲治先生

話題提供2：医療／介護保険の改定に伴い、回復期リハの内容や基準も数年かけて変遷してきたが、当院でも最近 FLEX リハ、365 日リハを導入し、特に前者では好成績が得られつつある実態を紹介。同時に、脳卒中のさまざまなリスクの見直し、生活習慣改善や家族との関係修復には、回復期リハという中間地点の数ヵ月間の入院は意義深いこと等が示された。一方で、折角回復期リハでFIM改善しても、その後の介護保険に切り替わり在宅に戻されると元のレベルに復戻してしまうので、かかりつけ医の立場としてはリハ単位数を何とか増やして欲しいと言うジレンマに陥るとの現実的なご指摘を戴いた。

※ 次回の予定は、7月の中旬の水曜日（7/11 または 7/18）を予定した。

以上、文責 井林

共催 リラックスカンファランス／エーザイ株式会社